

**\* 「明治6年第5月獨和字典」を収蔵**

図書室からアーカイブ室の筆者に渡されたものの中に表記の辞典がある。表紙はすでになく、背表紙もないがそこに「尅」と読める字(写真1)が書いてある。ずいぶん古いもので、表紙、裏表紙、背表紙もないが中のページは欠けていないように見える。



写真1 辞典の外観

最初に現れたページには写真2のように「東京大学図書の印」という大きな角印が押されている(写真2)。これが図書室からアーカイブ室に出されていいのかなとも思えるが、図書室の責任者から渡されたものである。考えてみれば、図書にあってもすでにこれは実用に供するようなものではない。アーカイブの対象とした方がいいのだろう。

この辞書をアーカイブしたものとして解説を書く力は筆者にはない。最初に出てくる序文のようなものが漢文(写真3)だったり、非常に古い文体の日本語(写真4)だったり、ドイツ語(写真4)だったりする。薩摩の学生3人の名前が出てくる。これ等初めのページを紹介し、本文(写真5、6、7、8)を紹介するに止めておくので、読める人のお知恵をお借りして、この辞典の発行の経緯などを知りたいと思う。

明治維新の頃、優秀な人材がたくさん出たことが不思議である。明治6年(1873年)といえば、福岡藩士の子息であった初代東京天文台長寺尾寿が東京外国語学校(現・東京外国語大学)に入学した年であり、寺尾寿はそこでフランス語を修め、明治7年(1874年)開成学校(東京大学の前身)に入学し物理学を専攻し、明治11年(1878年)東京大学理学部物理学科を卒業する。そして明治12年(1879年)官費留学生としてフランスに留学したのである。初代東京天文台長が勉強した頃、薩摩の学生3人がドイツ語をおさめたのであろう。



写真2 明治6年第五月 獨和字典 官許と書かれている

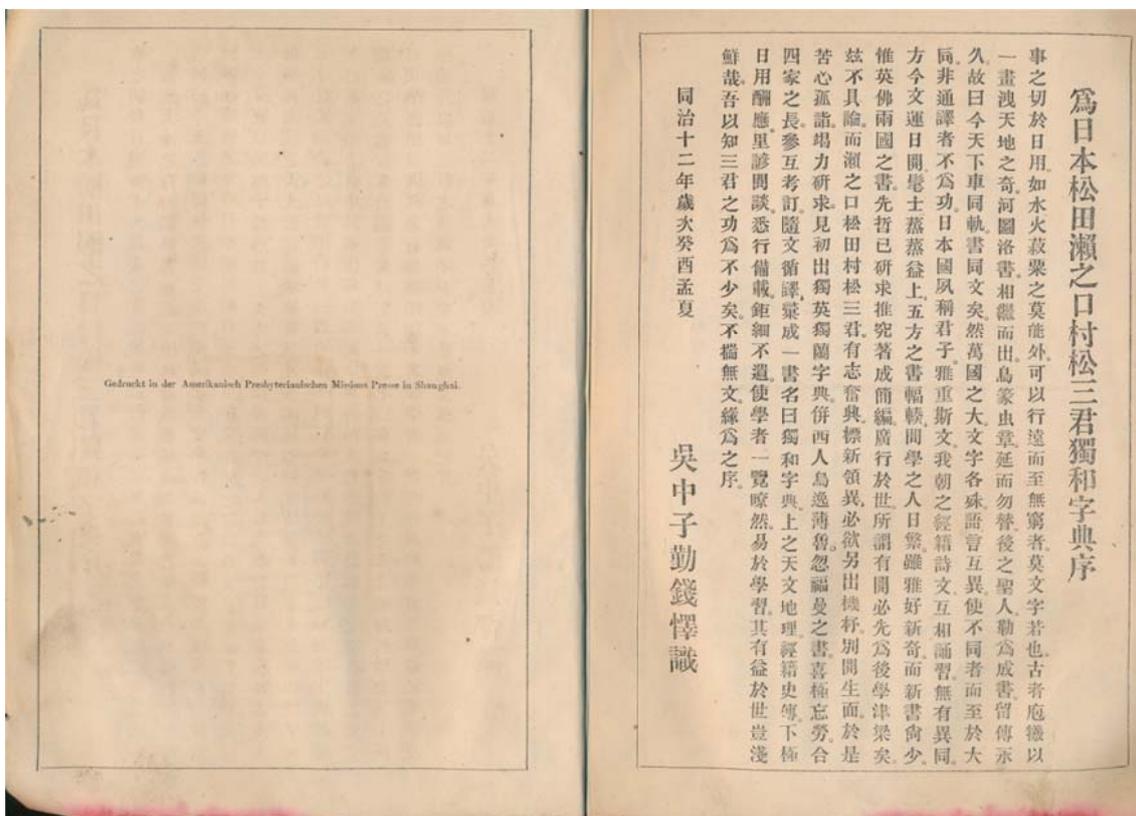


写真3 序文と思われるが漢文である

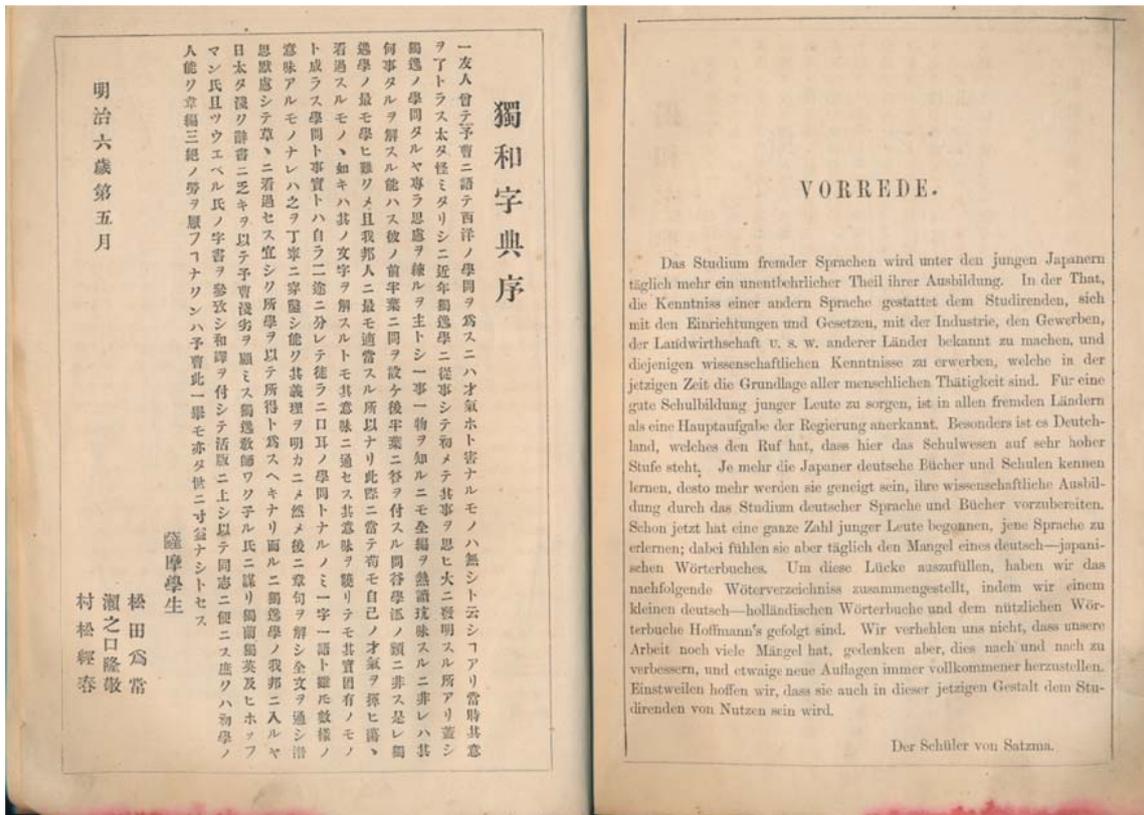


写真4 右ページはドイツ語、左ページは古い日本語

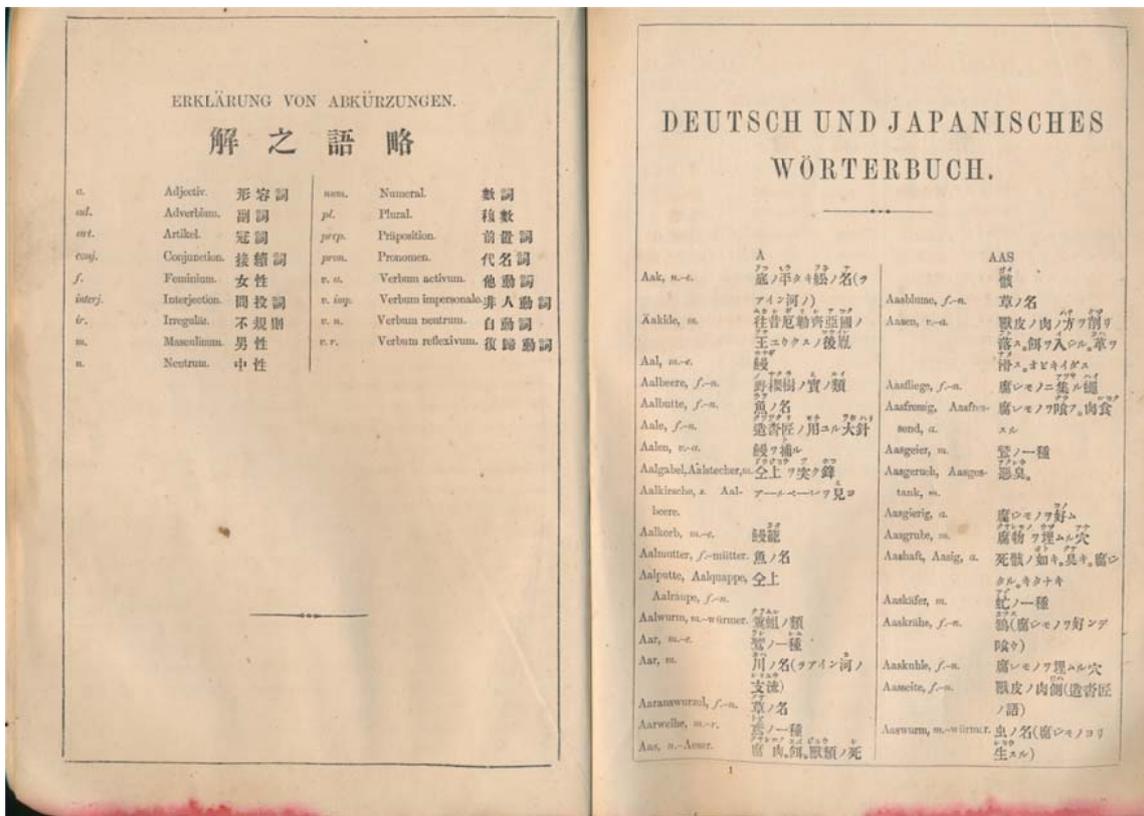


写真5 辞典の始まるページ



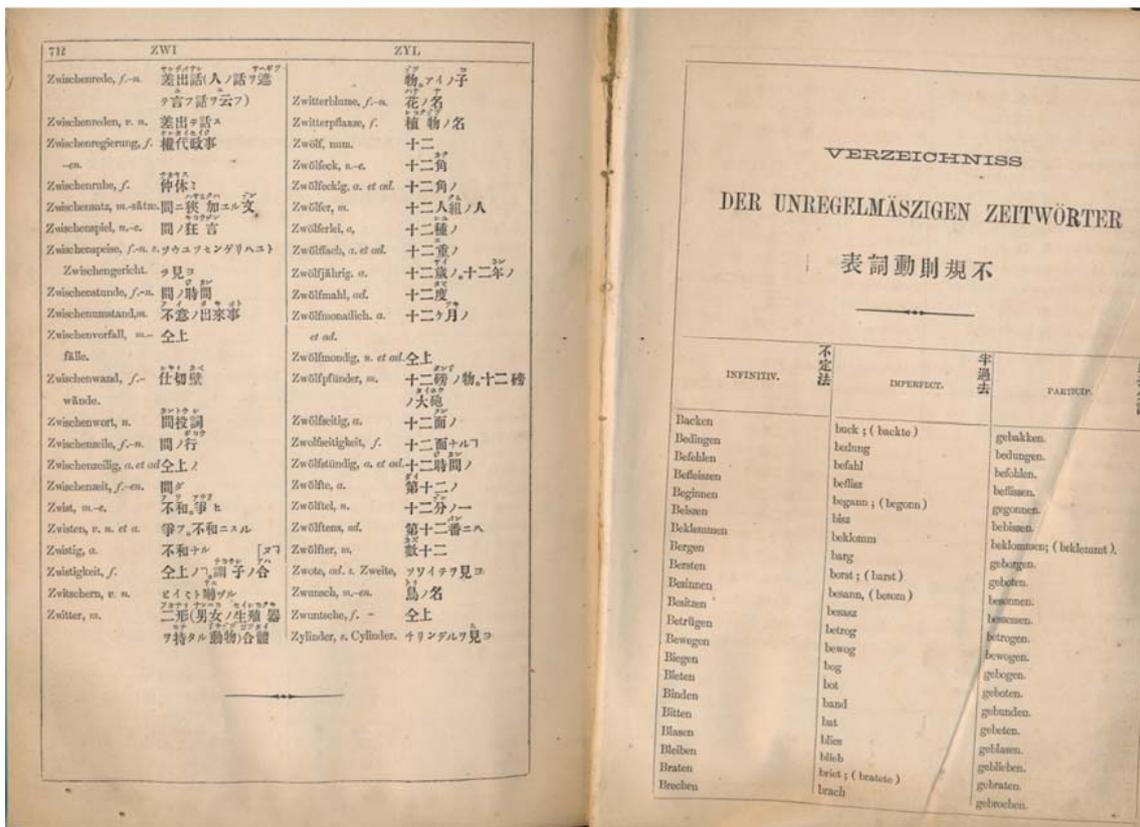


写真8 本文最後のページ

ここまで記事を書いてきて、「東京大学図書の印」があることが問題となった。東京大学は明治10年（1877年）4月に創設され、明治19年（1886年）3月に帝国大学となり、明治30年（1897年）6月に京都帝国大学が創設されたことに伴い東京帝国大学となっている。そして昭和22年（1947年）9月に東京大学に改称している。この「東京大学図書の印」は明治19年3月以前の印なのかもしれないことになる。この「東京大学図書の印」があることが問題視されたが調査の結果、すでに東京大学の蔵書ではないことが確認されている。また、この辞典が国立天文台の外に出ることもない。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)